

平成25年度 事業報告書

自 平成25年 4月 1日

至 平成26年 3月 31日

住 所 東京都文京区春日1丁目16番30号

法人名 公益財団法人 **講 道 館**

平成 2 5 年度事業報告書

【公益事業】

1. 青少年を対象とする学校講道館の運営

各種学校に認定されている学校講道館で、生徒の技能、習熟度合いに応じて柔道を技術面と態度面から指導した。技術に関する内容は、基本動作、対人技能、試合と段階的に進めた。態度に関する内容は、特に礼法や相手を尊重する態度、公正な態度、健康・安全に関する態度及び柔道の持つ伝統的な行動の仕方などを重視し指導に当たった。

平成 2 5 年度の学校講道館の生徒数について、平成 2 3 年度、2 4 年度を挙げて 2 5 年度と比較した。

(生徒数の変遷)

(名)

	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度
柔道普通科	6 9	6 4	5 0
柔道特修科	2 7 4	1 8 1	1 4 0
柔道補習科	3 4	3 9	4 4
柔道研修科	2 0	2 0	1 9
柔道国際科	3 0	2 0	2 4
合 計	4 2 7	3 2 4	2 7 7

2. 講道館道場における柔道の指導教授

(1) 道場における指導

延べ 1 5 0 名を超す指導員・講師を配置し、各科においては、それぞれの対象の実態をふまえた上で、生徒の心身の発育、発達段階や、能力・適性、興味・関心等の実状を考慮し、柔道技術面だけにとどまることなく、礼法や相手を尊重する態度、公正な態度、柔道の持つ伝統的な行動の仕方等を重視して修行者の指導に当たった。態度に関する内容は、柔道が我が国の伝統的な運動文化であるため、特に礼法や相手を尊重する態度、公正な態度、健康・安全に関する態度及び柔道の持つ伝統的な行動の仕方などを重視して指導した。

(指導員・講師)

道場における修業者の指導を適切に行うため、道場指導部においては、錬成部指導員(18名)、成年部指導員(28名)、女子部指導員(22名)及び大阪道場指導員(26名)を選任し、学校講道館では少年部講師(19名)、男子部講師(37名)、女子部講師(12名)及び国際科講師(9名)を選任し、各部毎に指導計画、実施方法を定めて技術面、精神面にわたり指導した。特に指導に関しては柔道技術面にとどまることなく、講道館柔道が目的とするところの師範の遺訓の精神に基いた人間形成、社会貢献を目的とした高邁な理想を目指し礼法や相手を尊重する態度、公正な態度、柔道の持つ伝統的な行動の仕方を留意する態度などを重視して指導にあたった。

(稽古時間及び指導時間)

(本館)

ア. 一般稽古

平日 男子 午後 4 : 0 0 - 8 : 0 0
 女子 午後 5 : 3 0 - 7 : 3 0
 土曜 男子 午後 4 : 0 0 - 7 : 3 0
 女子 平日に同じ

(大阪)

午後 6 : 0 0 - 8 : 0 0

イ. 少年指導

午後 4 : 3 0 - 6 : 0 0

午後 5 : 0 0 - 6 : 0 0

ウ. 「形」指導

毎月第 2 ・第 3 土曜日 午後 3 : 3 0 - 5 : 3 0

(2) 研修会

道場指導員、学校講道館講師に対し、年1回の全体研修会及び各部ごとの研修を実施した。また、道場指導員、学校講道館講師及び柔道高段者の資質の向上と自己研鑽に資する目的で、月1・2回の形研修を実施した。

(3) 暑中稽古及び寒稽古

暑中稽古は、講道館本館において、7月13～22日の10日間（申込者数252名 皆出席者数110名）、大阪国際柔道センターにおいて、7月25～30日（28日は休み）の5日間実施した。

寒稽古は、講道館本館において、平成26年1月8～17日の10日間（申込者数295名 皆出席者数185名）、大阪国際柔道センターにおいては、1月14～18日の5日間実施した。

(4) 紅白試合及び月次試合

修行者の上達度合いを確認し修行の励みとするため、紅白試合及び月次試合を行った。

○月次試合 一年間15回実施し、合計1,151名の参加者であった。

○紅白試合

春季紅白試合（平成25年5月19日）：男子442名 女子59名 計501名

抜群者 男子6名（初段→貳段4名 貳段→参段2名）

女子1名（女子貳段→女子参段）

秋季紅白試合（平成25年10月13日）：男子514名 女子63名 計577名

抜群者 男子1名（貳段→参段1名）

女子1名（女子初段→女子貳段）

大阪前期紅白試合（平成25年4月20、21日）：男子135名 女子48名 計183名

抜群者 男子3名（初段→貳段2名 貳段→参段1名）女子0名

大阪後期紅白試合（平成25年11月23、24日）：男子135名 女子50名 計185名

抜群者 男子1名（初段→貳段1名）女子0名

3. 学校等の柔道指導者による青少年の健全な育成に関する協議会の開催

平成25年8月17日、18日、三重県伊勢市において、全国中学校柔道大会に先立ち、中体連柔道競技部の全国（47都道府県）委員長を対象として、「講道館中学校柔道指導者講習会」を開催し、柔道の教育的、体育的、精神的面から柔道を通じて次代を担う青少年の健全な育成をはかる方策について意見を交換した。また、講道館から講師を派遣し、「中学校における柔道指導者の在り方」「国際柔道連盟試合審判規定の考え方」について講演を行った。

4. 柔道による青少年の健全育成に関する実践報告会及び研究会の開催

(1) 平成25年5月18日（日）に青少年の柔道普及を目的として「少年部錬成発表会」を大阪国際柔道センターで開催した。当日は、幼少年部の練習生・保護者が多数集まり、親睦を図ると共に、日頃の練習の成果を乱取・試合等を通じて披露するとともに、高段者による各種形の演技も行い、充実した催しとなった。

(2) 平成26年2月2日（日）に開催された全日本柔道少年団各地区代表者会議の場において、柔道少年団の組織の強化・活動の充実化の為の具体案や、小学校児童の健全育成の対策等について意見の交換を行った。

(3) 大阪国際柔道センター幼少年部の12名が本館の「少年柔道夏期講習会」に参加した。

5. 柔道による青少年の健全な育成に関する国内外諸団体との連絡、資料交換及び交流

講道館段位推薦委託団体（110団体）の会長会議を平成26年3月11日（火）に開催した。昇段時費用について、歴史、経緯、今後の方針の説明を行い、また、講道館昇段資格に関する内規の改正について、意見交換が行われた。

6. 柔道に関する講習会の開催

(1) 夏期講習会

夏期講習会を平成25年7月18日から8月7日までの間、実施した。

*附属明細書①参照

(2) 講道館講習会

正しい柔道の一層の普及発展を図るため、本年度も本館から講師を派遣し（経費は講道館負担）、講道館講習会を実施した。派遣先は計23カ所で、講師の延べ人数は26名であった。

*附属明細書②参照

(3) 講道館形講習会

制定された正しい“形”の修得を目指してもらう為に、全国10地区毎に講道館“形”講習会を本年も実施した。派遣先は、今回は10地区(11ヶ所)で、講師は延べ42名であった。

*附属明細書③参照

(4) 海外での講道館形講習会

平成25年度は実施されなかった。

7. 柔道指導者の養成及び海外派遣並びに外国人柔道指導者等の受入れ

(1) 柔道指導者の海外派遣を、下記の通り行った。

- ア. 本館による短期派遣（3ヶ国、5名）
 - イ. 海外柔道連盟招聘による本館短期派遣（1ヶ国、2名）
 - ウ. 海外柔道連盟招聘による本館長期派遣（4ヶ国、4名）
 - エ. 国際交流基金による短期派遣（なし）
 - オ. 日本武道館による短期派遣（1ヶ国、6名）
- *附属明細書④参照

(2) 外国人柔道指導者等の受入れを、下記の通り行った。

- ア. 平成25年度、本館において修行した外国人は男子66カ国より805名、女子33カ国より178名、合計で67カ国より983名であった。
昨年と比べ、国数においては4カ国の増、修行者数では男子123名の増、女子72名の増、全体で195名の増であった。
- イ. 本館で受け入れた外国からの団体及びナショナルチームは39団体であった。
- ウ. 講道館柔道国際セミナーを下記の通り開催し、海外の柔道指導者を受け入れた。
期間 : 平成26年3月3日～3月26日
受講者 : アンゴラ2名、ペルー2名、ベトナム2名、タイ2名、ラオス2名 計10名
- エ. 国際交流基金と共催し、下記の通り、ミャンマーチームを受け入れた。
期間 : 平成25年9月2日～10月15日
対象者 : ミャンマー男女チーム16名
協力団体 : 国士舘大学、筑波大学、修徳高校、三井住友海上、国際武道大学
- オ. その他来館者（デモンストレーション、賓客、取材等）
クロアチア大統領府・作家 夫妻2名
イスラエル経済省次官 ほか3名
ハイチ計画・対外協力次官

(3) その他、JICA（国際協力機構）青年海外協力隊員に関わる事業等

- ア. JICA（国際協力機構）青年海外協力隊員技術補完研修を下記の通り実施した。
期間 : 平成26年3月3日～3月26日
受講者 : 平成26年1、2次隊 6名
- イ. 本館における技術補完研修を終了して派遣されているJICA（国際協力機構）青年海外協力隊員平成25年度に任期を終了して帰国した隊員は計3名であった。
平成26年3月31日現在で赴任中の隊員は計10名であった。

- ウ. JICA（国際協力機構）シニア海外ボランティア
平成25年度に任期を終了して帰国したシニアボランティアは計2名であった。
平成26年3月31日現在で赴任中のシニアボランティアは計3名であった。
*附属明細書⑤参照

- エ. 柔道器材支援事業
a. 寄贈
講道館柔道器材支援事業として、柔道衣合計260着を寄贈した。
b. 提供
支援用柔道衣として、合計279着の柔道衣を提供いただいた。

8. 柔道に関する調査研究

- (1) 大学の体育の教授その他の専門家により「講道館柔道科学研究会」を常設し、柔道の原理的、歴史的、技術的、心理的等の研究を行い、平成25年3月17日（月）講道館新館2階教室に於いて研究集会を開催した。演題「アスリート委員会について－設立経緯と展望」（アスリート委員長 田辺陽子講師）。聴講者は大学教員、高校教員、中学教員、大学院生、大学生、講道館職員幹部、一般修行者（外国人を含む）、報道関係者等、計23名であった。
- (2) 講道館技研究部会は、形部門に特化して「形検討委員会」を設け、DVD作成、教本の英訳等を行った。
- (3) 本館職員による形の勉強会を月次試合開始前の時間を利用して実施した。

9. 柔道に関する図書、雑誌等の編集発行

- (1) 雑誌「柔道」
講道館機関誌である月刊「柔道」を4月号2,150部、5月号1,900部、6月号2,250部、7月号～3月号各1,850部を毎月1日に発行した。
内容は講道館柔道に関する論説、国内外の主要な大会、講道館行事の報告、講道館主催の講習会、各地だより、全柔連のページ、昇段者、月次試合、科学の頁等であり、広く国内外に配布して柔道の普及発展に寄与した。

10. 柔道に関する文献資料の収集保存及び展示

(1) 資料館

- ア. 資料の保存環境の向上
定期的な清掃を行い、資料の保存に適した環境の維持、向上に努めた。

- イ. 入館者数 2698人（前年度比 350人増）
国内男性740人、国内女性283人、海外男性1202人、海外女性473人
総合的学習の一環として来館した学校は以下の2校（事前申請のあった学校のみ記載）
- 愛知県半田市立青山中学校
 - 愛知県愛西市立佐屋中学校

- ウ. 資料収集の促進
寄贈受入 80点

エ. 大会開催日等における休日開館

実施日：全国柔道高段者大会（4月28日）、全国少年柔道大会合同錬成（5月4日）、千代田区民柔道大会（9月23日）、全日本柔道「形」競技大会（9月28日）、鏡開式（1月12日）

(2) 図書館

- ア. 柔道関係の文献・映像資料の収集・保存・提供
- a. 和書 83冊
b. 洋書 70冊
c. 映像資料 21点
蔵書数は和書3,553冊、洋書1,009冊の合計4,562冊となった。

イ. 主要な大会プログラムの収集・保存・提供
受け入れたプログラム数 41 点

ウ. 逐次刊行物（雑誌・新聞）の受入

a. 寄贈

- ・「柔道」講道館, 84 巻 4-12 号, 85 巻 1-3 号 2013 年 4-12 月, 2014 年 1-3 月
- ・「月刊武道」日本武道館, 2013 年 4-12 月, 2014 年 1-3 月
- ・「近代柔道」ベースボール・マガジン社, 35 巻 4-12 号, 36 巻 1-3 号 2013 年 4-12 月, 2014 年 1-3 月

b. 購入

- ・「武道学研究」(平成 25 年度分)
- ・「体育学研究」(同上)

エ. 柔道に関する調査依頼への対応

問い合わせ件数 42 件 (研究者、学生、マスコミ関係者、一般等)

オ. 図書館利用者数 287 人 (前年度比 153 人減)

国内男性 191 人、国内女性 40 人、海外男性 38 人、海外女性 18 人

11. 柔道の国際大会及び国内大会の開催

(1) 皇后杯全日本女子柔道選手権大会

本館と全日本柔道連盟共催の全日本女子柔道選手権大会は、前年度優勝者の推薦 1 名と全国 10 地区代表 35 名の計 36 名により 4 月 21 日、横浜文化体育館にて開催された。

(2) 全国柔道高段者大会

4 月 28 日講道館大道場で開催した。全国から八段 28 名、七段 245 名、六段 549 名、五段 624 名、合計 1,464 名の参加申込があった。

(3) 全日本柔道選手権大会

本館と全日本柔道連盟共催の全日本柔道選手権大会は、4 月 29 日昭和の日に日本武道館で盛大にとりおこなわれた。出場選手は、推薦選手として前年度優勝者及び準優勝者の 2 名と全国 10 地区選出の 35 名を合わせた計 37 名であった。

(4) 全国少年柔道大会

第 33 回全国少年柔道大会は 5 月 5 日講道館大道場において開催された。都道府県各 1 チーム (東京都 2 チーム) の 48 チームが参加、試合は団体戦と個人戦 (5 年生の部及び 6 年生の部) が行われた。

(5) 全日本柔道形競技大会

本館と全日本柔道連盟共催の全日本柔道形競技大会は、9 月 23 日に講道館大道場で挙行された。投の形・固の形・極の形・柔の形・講道館護身術・五の形・古式の形の 7 種目が行われ、全国の 10 地区代表 70 組、推薦枠 8 組および全国枠 5 組の合計 83 組 166 名により優劣が競われた。

(6) 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

本館と全日本柔道連盟共催の講道館杯全日本柔道体重別選手権大会は、11 月 9 日、10 日の両日、千葉ポートアリーナにおいて開催された。

12. 柔道の段位認定

(1) 入門者

本年度の入門者は 21,643 名で昨年度に比べ 1,412 名の減となった。
過去 10 年の入門状況は次のとおりである。

年 度	入門者数(名)	前年比(名)	年 度	入門者数(名)	前年比(名)
H 1 6	2 6, 6 7 1 (男子) 22,479 (女子) 4,192	- 4 8 1	H 2 1	2 3, 9 2 9 (男子) 19,867 (女子) 4,062	- 1, 3 5 2
H 1 7	2 7, 1 1 6 (男子) 22,821 (女子) 4,295	+ 4 4 5	H 2 2	2 4, 1 1 6 (男子) 19,949 (女子) 4,167	+ 1 8 7
H 1 8	2 8, 2 7 8 (男子) 23,900 (女子) 4,378	+ 1, 1 6 2	H 2 3	2 2, 7 2 9 (男子) 18,680 (女子) 4,049	- 1, 3 8 7
H 1 9	2 5, 1 8 8 (男子) 21,360 (女子) 3,828	- 3, 0 9 0	H 2 4	2 3, 0 5 5 (男子) 18,995 (女子) 4,060	+ 3 2 6
H 2 0	2 5, 2 8 1 (男子) 21,345 (女子) 3,936	+ 9 3	H 2 5	2 1, 6 4 3 (男子) 17,543 (女子) 4,100	- 1, 4 1 2

(2) 外国人入門者（上記(1)の内数）

本年度の外国人入門者は62の国・地域から男子536名、女子120名の合計656名であった。

(3) 昇段者

本年度の昇段者は合計30,326名で昨年度に比べ2,007名の減となった。過去10年の昇段状況は次のとおりである。

年 度	昇段者数(名)	前年比(名)	年 度	昇段者数(名)	前年比(名)
H 1 6	3 5, 0 8 6 (男子) 30,213 (女子) 4,873	- 1, 2 3 0	H 2 1	3 2, 5 7 7 (男子) 27,706 (女子) 4,871	- 1, 3 5 7
H 1 7	3 5, 7 2 8 (男子) 30,682 (女子) 5,046	+ 6 4 2	H 2 2	3 2, 2 4 1 (男子) 27,161 (女子) 5,080	- 3 3 6
H 1 8	3 7, 8 8 8 (男子) 32,705 (女子) 5,183	+ 2, 1 6 0	H 2 3	3 1, 9 4 0 (男子) 26,833 (女子) 5,107	- 3 0 1
H 1 9	3 3, 6 3 5 (男子) 29,224 (女子) 4,411	- 4, 2 5 3	H 2 4	3 2, 3 3 3 (男子) 27,181 (女子) 5,152	+ 3 9 3
H 2 0	3 3, 9 3 4 (男子) 29,194 (女子) 4,740	+ 2 9 9	H 2 5	3 0, 3 2 6 (男子) 25,197 (女子) 5,129	- 2, 0 0 7

13. 柔道の合宿、講習会、大会等参加者のための宿泊・休憩施設の提供

講道館で柔道の合宿、講習会、大会等が行われる場合、参加者及び指導者・運営役員等に対して宿泊や休憩のための施設を安価に提供した。25年度宿泊者は延べ総数7,988人であった(24年度8,363人)。一度の利用人数が数名から数十名と多く、また利用期間が数日から数週間と長期に亘ることもあり、宿泊・休憩施設が道場や会場と隣接していることで効率的・効果的な活動をサポートした。また、健康面、安全面、衛生面でも安心して使用して頂けるよう努力した。

【収益事業】

14. 物品販売

柔道関係の書籍・ビデオ・DVD、柔道グッズ等の雑貨、カレンダー等の刊行物を販売した。また、登録商標の使用許諾料収入等も得た。概要については下記の通り。

(1) 書籍

投の形、固の形、極の形、柔の形、講道館護身術、五の形・古式の形、昇段内規、嘉納治五郎（伝記）、JIGORO KANO AND THE KODOKAN（同伝記英語版）
講道館柔道試合審判規定、柔道用語小辞典、激闘の轍、百三十年沿革史、
治五郎著作集（一）～（三）、英文 JUDO、嘉納治五郎（私の生涯と柔道）、
嘉納師範に学ぶ、少年柔道指導法

(2) DVD

投の形、固の形、極の形、柔の形、講道館護身術、五の形、全日本柔道選手権大会
激闘の轍（昭和編）・（平成編）、術から道へ
ビデオ
術から道へ、三船十段、鏡開式

(3) 雑貨

ネクタイ、タオル、高段者バッチ、キーホルダー、額（大）、額（小）、段マーク、
短冊（精力善用・自他共栄）、色紙（精力善用 自他共栄）、額（精力善用・自他共栄）

(4) 刊行物

カレンダー、絵葉書

(5) その他

講道館マーク使用料等

15. 貸室・駐車場賃貸等事業

講道館が所有する不動産の一部を店舗、病院、事務所、駐車場等として賃貸した。また、自動販売機等のサービスを有料で提供した。概要については下記の通り。

(1) 貸室

講道館本館 7階	歯科医院
本館 6階	病院
本館 5階	事務所
本館 2階	事務所
新館 1階・地下	物品販売
大阪国際柔道センター 1階	飲食店

(2) 駐車場

講道館	11 台分
大阪国際柔道センター	13 台分

(3) 自動販売機、その他（ロッカー、コインランドリー等）サービス

事業報告書－附属明細書

①夏期講習会

講習名	受講資格	講習の目的	期間	受講者数 (修了者数)
第1部	男子四段、女子三段以上	柔道指導者の資質の向上	7.18～ 7.24	276 (129)
第2部	三段以下の有段者・無段者	柔道修行の基礎の確立	7.26～ 7.30	214 (194)
女子柔道	女子柔道修行者	柔道修行の基礎の確立	7.26～ 7.29	23 (22)
教科柔道	柔道指導者及び教科柔道指導者	柔道修行の基礎の確立	7.31～ 8.2	26 (26)
少年柔道	少年柔道修行者	指導法の学習	8.5～ 8.7	191 (177)
計				730名 (548名)

②講道館講習会

	日時	主催	会場	内容	講師
1	2013/4/7(日) 9:00～16:00	福井県柔道連盟	福井県立武道館	講道館柔道試合審判規定・国際柔道連盟試合審判規定の解説・実技指導	山崎立実
2	2013/4/14(日) 10:00～15:00	愛媛県柔道協会	愛媛県武道館	「国際柔道連盟試合審判規定」の試験的導入内容及び「同少年大会申し合わせ事項」の解説と実技指導	森山孝臣
3	2013/5/3(金) 10:00～15:00	福島県柔道連盟	郡山市総合体育館	「国際柔道連盟試合審判規定」の試験的導入内容及び「同少年大会申し合わせ事項」の解説と実技指導	高橋進
4	2013/8/24(度) 10:00～15:30	島根県柔道連盟	島根県立石見武道館	国際柔道連盟試合審判規定の解説・実技指導(新ルール)	小形健二
5	2013/5/19(日) 9:00～15:00	長野県柔道連盟	岡谷市民総合体育館	講道館柔道試合審判規定・国際柔道連盟試合審判規定の解説・実技指導(特に国際柔道連盟試合審判規定、新ルールの解釈をお願いしたい)	西田孝宏
6	2013/5/26(日) 10:00～16:00	青森県柔道連盟	青森市スポーツ会館	「国際柔道連盟試合審判規定」の解説	小形健二
7	2013/6/9(日) 10:00～15:30	栃木県柔道連盟	栃木県武道館	国際柔道連盟試合審判規定の解説・実技指導	小形健二

8	2013/6/16(日) 9:30~16:00	新潟県柔道連盟	長岡市民体育館 武道場	講道館柔道試合審判規定・国際柔道連盟試合審判規定の解説・実技指導(特に国際柔道連盟試合審判規定、新ルールの解釈をお願いしたい)	川口孝夫
9	2013/6/23(日) 9:30~12:00	杉並柔道会	日本大学第二学園 武道場	講道館柔道「投の形」「固の形」	山本三四郎
10	2013/6/30(日) 9:00~16:00	香川県柔道連盟	オークラホテル高松	1.柔道理論(歴史・意義と目的) 2.「国際柔道連盟試合審判規定」の解説	大迫 明伸
11	2013/8/4(日) 10:00~15:00	静岡県柔道協会	島田市総合スポーツ センター	国際柔道連盟試合審判規定の 解説・実技指導	高橋 進
12	2013/8/17(土) 15:00~17:00	日本中学校体育連盟	三重県営 サンアリーナ	中学校における柔道指導者の在り方について	増地 克之
	2012/8/21(日) 9:00~10:00	日本中学校体育連盟	三重県営 サンアリーナ	国際柔道連盟試合審判規定の考え方について	小形健二
13	2013/9/15(日) 9:00~12:00	板橋区柔道会	板橋区立小豆沢 武道場	国際柔道連盟試合審判規定の 解説・実技指導	天野 安喜子
14	2013/9/22(日) 10:00~15:30	三重県柔道協会	三重武道館	講道館柔道試合審判規定・国際柔道連盟試合審判規定の解説・実技指導	岡田 保彦
15	2013/10/19(土) 10:00~13:00	千葉県柔道連盟	千葉県総合スポーツ センター内 第一研修室	国際柔道連盟試合審判規定の解説	諏訪 剛
16	2013/11/16(土) 9:00~17:00	愛媛県柔道協会	松前総合文化センター ふるさと学習室	全国中学校柔道大会運営講習とその実際	本橋 順二
17	2013/12/1(日) 9:30~15:00	山梨県柔道連盟	小瀬スポーツ公園 武道館	「国際柔道連盟試合審判規定」(新ルール)について	小形健二
18	2013/12/1(日) 13:30~16:30	群馬県柔道連盟	ぐんま武道館 第一道場	「固の形」	道場 良久
19	2014/1/13 (月・祝) 9:30~15:30	札幌柔道連盟	北海道立総合体育 センター	「投の形」	向井幹博
20	2014/2/2(日) 9:00~14:10	全日本柔道少年団	講道館新館2階教室	柔道講話	尾形 敬史
				教育柔道	向井幹博
				国際柔道連盟試合審判規定と少年大会における申し合わせ事項の運用	諏訪 剛
21	2014/2/8(土) 10:00~17:00	沖縄県柔道連盟	沖縄県立武道館	国際柔道連盟試合審判規定の 解説・実技指導(新ルール)	小形健二
22	2014/3/15(土) 9:30~15:00	鳥取県柔道連盟	鳥取県立武道館	「国際柔道連盟試合審判規定」の試験的導入内容及び「同少年大会申し合わせ事項」の解説と実技指導	川口 孝夫
23	2014/3/16(土) 9:30~16:00	岐阜県柔道協会	岐阜県水産会館	「国際柔道連盟試合審判規定」の改正要点の解説	岡田 保彦

③講道館形講習会

No.	日時	主催	会 場	講師 ・ 形			
				投の形	固の形	講道館護身術	五の形
1	4月 7日 (日)	中国	鳥取県立武道館	向井 幹博	小志田憲一	眞喜志慶治	佐藤 正
				投の形	固の形	講道館護身術	五の形
2	5月 11日 (土)	東京	東京・講道館	仮屋 力	永井多恵子	片田 誠	宗 義明
				投の形	固の形	講道館護身術	五の形
3	5月 12日 (日)	東海	三重・名張市武道交流館	鮫島 元成	宇津木俊博	榎 義治	山本 四郎
				投の形	固の形	講道館護身術	五の形
4	5月 19日 (日)	東北	福島	灰原 茉美	道場 良久	村田 直樹	宗 義明
				柔の形	講道館護身	五の形	古式の形
5	5月 19日 (日)	九州 (南部)	宮崎	長谷川育男	永井多恵子	藤田 真郎	醍醐 敏郎
				極の形	柔の形	講道館護身術	古式の形
6	5月 25日 (土)	北海道	北海道	向井 幹博	長谷川育男	道場 良久	宇津木俊博
				投の形	極の形	講道館護身術	古式の形
7	5月 26日 (日)	九州 (北部)	大分	片田 誠	若松 節子	眞喜志慶治	佐藤 正
				極の形	柔の形	講道館護身術	古式の形
8	5月 26日 (日)	四国	愛媛県立武道館	南保 徳双	山本三四郎	福島美智男	松下 三郎
				投の形	固の形	講道館護身術	五の形
9	6月 17日 (日)	近畿	大阪・講道館大阪	南保 徳双	山本三四郎	小志田憲一	福島美智男
				投の形	固の形	講道館護身術	五の形
10	7月 6日 (土)	関東	埼玉県立武道館	平野 弘幸	向井 幹博	榎 義治	村田 直樹
				投の形	固の形	五の形	古式の形
11	9月 15日 (日)	北信越	石川県立武道館		若松 節子	藤田 真郎	
					柔の形	講道館護身術	

④海外派遣

ア. 本館による短期派遣

○七段 平野弘幸、五段 仮屋力
ラオス（審判・形セミナー）

平成25年6月27日～7月3日

○八段 藤田真郎
ミャンマー（SEA Games 出席）

平成25年12月16日～12月22日

○八段 藤田真郎、七段 大島修次
カンボジア（技術指導、形指導、昇段試験）

平成26年3月26日～4月1日

イ. 海外柔道連盟招聘による本館短期派遣

○七段 大迫明伸、六段 江種辰明
香港（審判・コーチングセミナー）

平成25年10月25日～10月28日

ウ. 海外柔道連盟招聘による本館長期派遣

○四段 千原慎太郎
ミャンマー（SEA Games 強化）
1日

平成25年3月1日～12月31日

○参段 北川勝広
香港

平成25年4月6日～26年3月31日

○五段 岩淵雄大
ブータン
23日

平成25年9月24日～12月

エ. 国際交流基金による短期派遣

なし

オ. 日本武道館による短期派遣

○七段 春日俊、六段 山田利彦、五段 大森淳司、五段 鈴木貴士、五段 佐藤武尊、
五段 佐野望
タイ

平成25年11月13日～11月20日

⑤ J I C A（国際協力機構）青年海外協力隊員に関わる事業

ア. J I C A（国際協力機構）青年海外協力隊員技術補完研修を下記の通り実施した。

期間 : 平成26年3月3日～3月26日

受講者 :

平成26年度1次隊 2名

参段 堀内芳洋（ブータン）

参段 狩野貴大（ペルー）

平成26年度2次隊 4名

参段 門脇直生（ウズベキスタン）

参段 飯塚佑（ボツワナ）

参段 森田直也（モンゴル）

女子参段 星山幸美（モンゴル）

イ. 本館における技術補完研修を終了して派遣されている J I C A（国際協力機構）青年海外協力隊員
平成25年度に任期を終了して帰国した隊員（計3名）

五段 浦田太（ペルー）

女子参段 藤後あさみ（エルサルバドル）

参段 佐々布祐介（モンゴル）

平成26年3月31日現在で赴任中の隊員（計10名）

参段 梅津哲也（ウズベキスタン）

参段 金盛友彦（ガボン）

参段 小城貴洋（ドミニカ共和国）

参段 長谷川靖（ペルー）

参段 山崎将太（ブルキナファソ）

参段 中村俊文（インドネシア）

参段 井坪圭佑（ボツワナ）

参段 勅使瓦慧（インド）

女子参段 鈴木祥子（ラオス）

女子参段 秋山日向子（ヨルダン）

ウ. J I C A（国際協力機構）シニア海外ボランティア

平成25年度に任期を終了して帰国したシニアボランティア（計2名）

六段 熊井憲治（ラオス）

六段 柿沼豊（ミャンマー短期）

平成26年3月31日現在で赴任中のシニアボランティア（計3名）

七段 山縣住雄（エルサルバドル）

四段 小山繁（エジプト）

六段 菊池正敏（アルゼンチン短期）